

# 「ハワイ短期留学」の報告

北濱 幹士\*

(受付 2016 年 7 月 1 日)

(受理 2016 年 9 月 30 日)

## A Report on Hawaii Study-abroad Program

by  
Kanji KITAHAMA\*

### Abstract

The purpose of this paper is to review the Hawaii study-abroad program offered by Tokai University Fukuoka Junior College. The paper also demonstrates the worth of this long-standing program from an educational viewpoint.

This program has a history of over 20 years, starting in 1995 when students and a few faculty members stayed in Hawaii for more than four weeks. In 1998 the period of the program was shortened and participants were limited to the freshmen who entered the Fukuoka Junior College. Since then, the program has taken several steps according to various purposes, such as outlining new features in the program, improving students' English skills, deepening cross-cultural understanding, and so on.

Finally, the paper makes a report on the Hawaii study-abroad program administered in 2016 in the new area, Kapolei, and discusses the future of the program.

**Keywords** : Study Abroad Hawaii, Tokai University Fukuoka Junior College, Hawaii Tokai International College

### 1. はじめに

東海大学福岡短期大学には(以後、福岡短大)、東海大学海外派遣留学制度、海外研修航海などのプログラムを含め、種々の留学制度が備わっている。福岡短大独自の海外留学制度としては、ハワイ短期留学(第1 Semester集中)、韓国短期留学A(第1 Semester集中)、韓国短期留学B(第2 Semester集中)、そして中国短期留学(第2 Semester集中)と3ヵ国で4回の短期留学を実施している。韓国及び中国短期留学は、ネイティブ教員の引率で固定されているが、ハワイ短期留学は英語圏、そして現地の受け入れ先が Hawaii Tokai International College(以後、HTIC)である事、また、短期留学プログラムの構成にHTICの担当者(International Programs)が携わっていることもあり、国際文化学科の教員が入れ替わりながら担当している経緯がある(英語担当教員及び英語圏での学位取得教員)。

福岡短大の2017年度学生募集停止を踏まえ、2016年度をもって福岡短大におけるハワイ短期留学は終わりを迎えることとなった。最後の短期留学引率者として、過去のハワイ短期留学の歴史を振り返ると同時に、2016年度のプログラムを紹介し、振り返る。本報告がハワイ短

期留学の事例として役に立てばと思う。

### 2. ハワイ留学プログラムの歴史

福岡短大におけるハワイ短期留学の歴史を紐解くために過去の教育年報を調査した所、本学教員が引率をする国外留学プログラムが始まったのは1995年度からであった<sup>\*)</sup>。1995年度から2016年度までの17年間、諸種の時代的背景や福岡短大の状況も踏まえ、ハワイ留学プログラムは大きく様変わりしている事がわかった。

本稿では、HTICとのみ称しているが、HTICがホノルル地区からカポレイ地区に移転した事を先に記しておく。1992年にHTICは東海大学の海外教育機関として設立された後、2015年4月よりオアフ島西部にあるハワイ大学ウエストオアフ校キャンパスビレッジ内(以後、UHWO)に移転している<sup>り</sup>。この移転に伴い、2015年度より福岡短大のハワイ留学プログラムは、新キャンパスにて実施されている。

次に、ハワイ留学プログラムの歴史的变化を4つに区分けて紹介する、1) 語学研修としての約4週間のプログラム、2) 新入生用の1週間入学直後プログラム、3) 10月に時期を移動した1週間プログラム、4) 9月実施の2週間プログラムである。

\*東海大学福岡短期大学

### 〈2-1〉 語学研修（約4週間）

1995年度から始まったハワイ語学研修は約1ヶ月に及ぶプログラムであった（表1参照）<sup>2-10)</sup>。この約4週間に渡るハワイ語学研修は2003年まで継続されているが、1998年より福岡短大からは引率者を派遣せず、HTICのスタッフに生活指導も含めお願いをしていると記載されている<sup>5-10)</sup>。尚、本学教員による引率がされていた頃は、約2週間で交代しており、現地での引率者は実質的に1名であった事がわかる。

表1 語学研修

年度	日程 参加学生数 引率者（引率期間）
1995	1996年2月6日～3月6日（28泊30日間） 参加学生数の記録無し ・竹田敏雄教授（2月6日～2月18日） ・米村徹教授（2月15日～3月6日）
1996	1997年2月6日～3月11日（32泊34日間） 参加学生数の記録無し ・大塚一徳講師（2月6日～2月24日） ・赤井ひさ子講師（2月15日～3月11日）
1997	1998年2月5日～3月10日（32泊34日間） 32名参加 ・伊津信之介助教授（2月5日～2月24日） ・ラウファーE.C教授（2月21日～3月11日）
1998	1999年2月10日～3月15日（31泊34日間） 9名参加 ・ラウファーE.C教授（滞在日の記録無し） ・岡崎八重子助講師（滞在日の記録無し）
1999	2000年2月14日～3月7日（21泊23日間） 25名参加 ・引率者は派遣せず、現地スタッフでの対応
2000	2001年2月13日～3月7日（22泊24日間） 7名参加 ・引率者は派遣せず、現地スタッフでの対応
2001	2002年2月25日～3月31日（33泊35日間） 8名参加（国際文化学科1年） ・引率者は派遣せず、現地スタッフでの対応
2002	2003年2月26日～3月31日（32泊34日間） 9名参加（国際文化学科7名、情報処理学科2名） ・引率者は派遣せず、現地スタッフでの対応
2003	2004年2月29日～3月31日（30泊32日間） 1名参加（国際文化学科1年） ・引率者は派遣せず、現地スタッフでの対応

\*引率者の役職は引率時にて記載



写真1 ホノルル地区にあったHTIC  
(photo by Kitahama)

この語学研修は、2002年度の年報から「HOPES プログラムに則っての研修」<sup>\*2)</sup>と記載されており、学園全体の高等教育機関統一プログラムへと移行した事がわかる。尚、2003年度以降は、東海大学海外派遣留学制度（夏季・冬季）に則って、2007年度に1名の学生がHOPESプログラムに参加をし、HTICを訪れている記録が残されている<sup>11)</sup>。

### 〈2-2〉 4月開催の短期留学（約1週間）

1998年度より新入生ハワイ集中講義と称して、6泊8日間のプログラムが、約1ヶ月の語学研修とは別にスタートした。この短期留学プログラムは国際文化学科の新入生を対象としており、入学直後の4月2週目～3週目に実施している（表2参照）<sup>5-10,12,13)</sup>。英語圏での生きた英語と文化を体験し、語学力と国際感覚を身に付ける事を目的として、2005年まで継続して実施していた<sup>5)</sup>。

8年間続いた4月期の短期留学であるが、2003年のみ10月に開催されている<sup>\*3)</sup>。また、2003年からは引率教職員が3名体制となり、2005年までの3年間継続された。これは、滞在先であるHTICがホノルルにあり、更なる学生指導が必要であったためと思われる。また、追加引率者となったのは教員では無く職員であり、その同行は2003年、2004年、2005年、そして2007年と4年間行われた。

4月開催の短期留学がスタートした1998年頃は、各短大・大学が学生獲得の為にオープンキャンパス等を始めた時期であり、入学後のハワイ短期留学を学生募集の目玉として位置付けていたと思われる。しかしながら、対象者である国際文化学科の新入生全員が本短期留学に参加する訳では無い。従って、入学以前から短期留学に関する諸種の連絡が必須、通常授業期間内での実施（不参加学生の対応）、入学直後で学生の動向が不明である事など、本短期留学の運営には諸種の問題が見え隠れしながらも実施されていた<sup>\*4)</sup>。

表2 4月実施の短期留学

年度	日程 参加学生数 引率者
1998	1998年4月11日～4月18日（6泊8日間） 50名参加 ・岩本敏夫教授 ・吉岡メリーエレン助教授
1999	1999年4月10日～4月17日（6泊8日間） 63名参加 ・真下 仁教授 ・吉岡メリーエレン助教授
2000	2000年4月20日～4月27日（6泊8日間） 55名参加 ・真下 仁教授 ・赤井ひさ子助教授
2001	2001年4月21日～4月28日（6泊8日間） 35名参加 ・ラウファーE.C教授 ・赤井ひさ子助教授

2002	2002年4月22日～4月29日（6泊8日間） 34名参加 ・宮内順教授 ・吉岡メリーエレン助教
2003	2003年10月21日～10月28日（6泊8日間） 39名参加 ・堀内俊教授 ・矢田公美助教 ・西村真紀子事務室員
2004	2004年4月17日～4月24日（6泊8日間） 42名参加（女子28名・男子：14名） ・岡寄八重子助教 ・神山高行助教 ・森田博文主査
2005	2005年4月16日～4月23日（6泊8日間） 58名参加（女子39名・男子19名） ・真下仁教授 ・大方優子講師 ・山本真由美主査

\*引率者の役職は引率時にて記載



写真2 吉川前 HTIC 学長と共に（2006年度）  
(photo by Kitahama)

### 〈2・3〉 10月開催の短期留学（約1週間）

2006年と2007年の短期留学は、入学直後の4月期ではなく、時期を10月に移行して実施されていた（表3参照）<sup>11,14)</sup>。旅程を変更した主な理由は、多種多様な学生が入学してきたことや、以前から問題視されていた学内授業運用等の問題であり、改善を図るために入学直後の実施から大学生活に慣れてきた半年後へと変更した。

表3 10月実施の短期留学

年度	日程 参加学生数 引率者
2006	2006年10月8日～10月14日（5泊7日間） 42名参加（女子27名・男子15名） ・吉岡メリーエレン教授 ・北濱 幹士講師
2007	2007年10月7日～10月13日（5泊7日間） 45名参加（女子40名・男子5名） ・吉岡メリーエレン教授 ・神山高行准教授 ・香月康則係長

\*引率者の役職は引率時にて記載

### 〈2・4〉 短期留学（約2週間）

8年続いた4月期から10月に時期を移行したが、それも2年で変更となった。この変更により、短期留学の実施時期、日程、プログラム等、紆余曲折を辿り、2008年より現行へと限りなく近いプログラムへと変遷して来た（表4参照）<sup>15-23)</sup>。まず、2008年度より名称が「ハワイ短期留学」となり、対象者は、「英語Iを履修している国際文化学科及び情報処理学科の1年生」と変更された<sup>15)</sup>。2010年度にはカリキュラムの変更に伴い「英語Iまたは英語コミュニケーションIを履修している国際文化学科及び情報処理学科の1年生」<sup>17)</sup>、その後、2012年度には国際文化学科の専門科目から両学科共通科目となると共に、2年生の参加も可能となった<sup>19)</sup>。また、通常授業が実施されていない9月上旬に日程が移動した事により、2009年からは約2週間へと滞在期間の延長が可能となった（2008年のみ8泊10日間）。

2008年度より「ハワイ短期留学」として確立された本プログラムであるが、2009年度以降は参加者が20名を下回り、1995年より複数名での教職員引率が2009年からは教員1名での引率となった。また、既にHTICの移転に関しては述べたが、2015年度よりHTIC新キャンパスにて短期留学は実施している。

表4 2週間の短期留学

年度	日程 参加学生数 引率者
2008	2008年9月10日～9月19日（8泊10日間） 21名参加（女子18名・男子3名） ・吉岡メリーエレン教授 ・神山高行准教授
2009	2009年9月8日～9月21日（12泊14日間） 7名参加（女子6名・男子1名） ・神山高行准教授
2010	2010年9月8日～9月21日（12泊14日間） 13名参加（女子11名・男子2名） ・神山高行准教授
2011	2011年9月7日～9月20日（12泊14日間） 9名参加（女子9名） ・神山高行教授
2012	2012年9月5日～9月18日（12泊14日間） 14名参加（女子10名・男子4名） ・ウェアージンリー准教授
2013	2013年9月5日～9月18日（12泊14日間） 12名参加（女子12名） ・ウェアージンリー准教授
2014	2014年9月8日～9月21日（12泊14日間） 19名参加（女子18名・男子1名） ・松本知子講師
2015	2015年9月8日～9月21日（12泊14日間） 10名参加（女子10名） ・松本知子講師
2016	2016年9月5日～9月18日（12泊14日間） 7名参加（女子6名・男子1名） ・北濱幹士准教授

\*引率者の役職は引率時にて記載

### 3. 2016年度ハワイ短期留学

#### 〈3-1〉 概要

2016年度ハワイ短期留学は、9月5日から18日までの12泊14日間の日程に、学生7名（女子学生6名、男子学生1名）、引率教員1名の総数8名が参加し、実施された<sup>23)</sup>。

2015年度までのハワイ短期留学は、英語学習に重点を置いていたが、2016年度は学内外での様々なフィールドワークを通じて幅広い視野から異文化を捉える事を目的とした。これに伴い、短期留学の内容、及び目的と効果を変更した（表5、及び表6参照）。具体的な変更点は、世界屈指のリゾート地にて観光に対する学習、スポーツビジネスの本場にてスポーツマネジメントに対する学習、それらを含めての国際感覚醸成及びグローバル人材の育成である。

本短期留学の目的を変更した大きな理由は、多感な10代であるからこそ、各々がハワイ・アメリカ文化を直接的かつ直感的に見聞きすると共に、可能な経験は全て寄与させたいと言う事である。ハワイ・アメリカだからこそその経験を含める事に、このプログラムの優位性を求めた。また、観光とスポーツを目的に加えた理由は、引率教員がこの両分野に長けているからである<sup>\*5</sup>。なお、英語学習の時間数は前年度と同様に維持し、フィールドワークの場所変更などによって学習内容の対応をした。

表5 短期留学の内容

<p><b>2015年度までの目的と効果：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 短期集中研修による英語の語学力向上</li> <li>2) 英語による基礎的なプレゼンテーション能力の向上</li> <li>3) 留学体験による異文化理解・国際感覚の醸成</li> <li>4) 検定資格への挑戦を含めて、さらなる英語学習への動機付け</li> </ol>
<p><b>2016年度の目的と効果：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 留学体験による異文化理解</li> <li>2) 国際感覚の醸成・グローバル人材の育成</li> <li>3) 世界屈指のリゾート地にて観光に対する学習への動機付け</li> <li>4) スポーツビジネスの本場にてスポーツマネジメントに対する学習への動機付け</li> </ol>

表6 短期留学の目的と効果

<p><b>2015年度までの内容：</b></p> <p>ハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）の現地スタッフによる英語の語学研修を中心とした14日間の短期留学プログラム。</p> <p>HTIC 内での英語学習や屋外での様々なフィールドワークへの参加を通じて、コミュニケーション能力を重視した実用的な英語と異文化理解について学ぶ。</p>
<p><b>2016年度の内容：</b></p> <p>ハワイ東海インターナショナルカレッジ（HTIC）の現地スタッフによる英語の語学研修等を含めた14日間の短期留学プログラム。</p> <p>HTIC 内での学習や学外での様々なフィールドワーク（アメリカの大学スポーツ観戦、スポーツ施設の見学等）を通じて、コミュニケーション能力向上と共に、広い視野から異文化を捉える事ができるよう実施する。</p>

#### 〈3-2〉 プログラムの変更

先述した通り、2016年度ハワイ短期留学の内容及び目的と効果の変更に伴い、今までとは異なったフィールドワークを加えたプログラム構成とした。全てのフィールドワークを変更した訳ではなく、Pearl Harbor（USSアリゾナ記念館）、Hanauma Bay State Parkでの海水浴は継続フィールドワークとして実施した。下記にて、変更したフィールドワーク及びプログラム構成について述べる。

フィールドワークの通例とされていた Polynesian Cultural Center や Hawaii's Plantation Village 等の文化施設訪問を取りやめ、日本で得られない経験を得る事ができるフィールドワークサイトに着目した。勿論、教育・文化施設での学びや経験は大変に重要である。しかし、2週間といった短い滞在期間では、ハワイ・アメリカと言った雰囲気（外部環境）を最大限に感じる事に優位性があると考えた。

始めに、日本ではメディア等を通じても見ることが少ない Football game<sup>\*6</sup>の観戦に加え、スポーツマネジメント及びアメリカンカレッジスポーツについて理解を深められるようにした。また、観光の観点からは、世界屈指のリゾート地であるホノルルでの観光研修（ホテル視察及び現地旅行会社訪問）<sup>\*7</sup>を加えた。

次に、UHWO カフェテリアでの食事回数を減らし、意図的に外食の回数を増やした<sup>\*8</sup>。その理由としては、日々のスケジュールに抑揚を付け、町へ出られるといった学生のモチベーションアップに期待した。また、外食と言った目的を持つことで、様々な相乗効果が期待できる。例えば、移動の手段としての市バス使用、レストランでの注文などを含め、能動的に学生が英語でコミュニケーションを取り、またその向上に努める事ができるようにした。



写真3 カポレイに移転した現在の HTIC  
(photo by Kitahama)



	Sep 5th (Mon)	Sep 6th (Thu)	Sep 7th (Wed)	Sep 8th (Thur)	Sep 9th (Fri)	Sep 10th (Sat)	Sep 11th (Sun)
7:00-8:00	Arrive at HNL Check in HTIC Housing, Program Orientation	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Free Time	Free Day
9:00-12:00		Study Time	Field Work #1 @Pearl Harbor	Study Time	Study Time		
12:30-13:30	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lecture #2		
14:00-15:30	HTIC & UHWO Campus Tour	English Communication	English Communication	English Communication	English Communication		
15:40-17:10	Kapolei Town Tour	Speech	Speech	Speech	Speech	Field Work #3	
17:30-18:30		Dinner	Field Work #2 Eating out	Dinner	Dinner		
19:00-21:00	Meeting	Study Time Meeting		Study Time Meeting	Study Time Meeting	Study Time Meeting	UH Football Game @Aloha Stadium

	Sep 12th (Mon)	Sep 13th (Thu)	Sep 14th (Wed)	Sep 15th (Thur)	Sep 16th (Fri)	Sep 17th (Sat)
7:00-8:00	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast	Check out HTIC
9:00-12:00	Study Time	Field Work #4	Study Time	Field Work #5 Beach Activity @Hanauma Bay	Study Time Final Presentation Closing Ceremony	Depart HNL for Japan
12:30-13:30	Lunch		Lunch	Lunch	Lunch	
14:00-15:30	English Communication	Diamondo Head	English Communication	English Communication	Free Time	
15:40-17:10	Speech		Hilton Hawaiian Village	Speech		Speech
17:30-18:30	Hula & Hawaiian Music	JTB Hawaii Travel	Dinner	Dinner		
19:00-21:00	Study Time Meeting		Study Time Meeting	Study Time Meeting	Meeting	

図1 2016年度ハワイ短期留学スケジュール

表7 2006年度と2016年度の比較

	2006年度	2016年度
日数	5泊7日間	12泊14日間
場所	ホノルル地区	カポレイ地区
移動	福岡発 16時40分 ホノルル着 9時25分	福岡発 19時00分 ホノルル着 8時35分
乗継	経由便(中部国際空港)	直行便(ホノルル空港)
学生数	42名 女子27名・男子15名	7名 女子6名・男子1名

#### 4. 2016年度ハワイ短期留学を実施して

##### 〈4・1〉 2006年度と2016年度の比較

2016年度ハワイ短期留学を振り返るにあたり、2006年度ハワイ短期留学の引率経験と今回を比較してみたい。本プログラム名称としては、同様のプログラムとして扱われているが、滞在日数、滞在場所、移動時間、飛行機の乗り継ぎ、参加学生数など、その多くが異なっている(表7参照)。

プログラム日数に関しては、上記で述べたように、プログラムの目的によって1週間から2週間へと延長した。滞在場所は同じHTICであるが、住所がホノルルからカポレイへと移動している。以前のHTICであれば、授業終了後に徒歩でワイキキなどの繁華街へ出ることが容易であったが、現在のカポレイからワイキキへは時間帯にもよるが、市バスで90分程度を要する。従って、HTICの移転によりプログラム全体がリニューアルされたと言っても過言ではないだろう。例えば、以前のHTICの部屋からはワイキキの街光が眩しかったが、現HTICでは街灯の光しか入ってこない、或いは、エレベータで1階

に降りるだけであったカフェテリアが、現在は徒歩5分程離れたUHWOのカフェテリアになるなど、生活環境そのものも大きく変化した。しかし、HTICの学生しか居なかった以前とは異なり、学生寮、図書館やカフェテリアまた、ブックストアなどもUHWOとの共同利用になるなど、UHWOの学生の存在を近くに感じる事ができる。今回の短期留学でも、学生寮の部屋が隣だったUHWOの学生と親しくなり、食事を一緒にする姿も見受けられた。従って、生活面からも勉学に適したエリアに移転したと言えるであろう。

カポレイへと移転したHTICは、以前と比べると若干ホノルル空港からは遠くなった。しかし、近年は福岡空港からホノルルへの直行便が就航した事により、ホノルル空港までの移動時間が約8時間30分となった。2006年度は、福岡空港から中部国際空港(セントレア)での乗り換えを要し、ホノルル空港までの総移動時間は約13時間であった(表7参照)。参加学生及び引率者にとって、この約5時間の差、及び、乗換といった不便による負担は計り知れないものである。また、移動時間短縮により、現地での滞在に余裕が持てるようになった。

ハワイ短期留学の参加人数にも着目しておく。筆者が引率した2006年度と2回目の2016年度では、参加人数が6分の1の7名と大幅に減少した(表7参照)。参加学生にとって人数減少は喜ばしい事でもある。授業への集中力も高まるだけでなく、語学を学ぶ場合には少人数であることに越したことは無い(写真4,5参照)。母国語同士が多い場合、どうしても母国語での会話が増えてしまい、他言語での会話が減ってしまうのは止むを得ない。また、学外に出た場合でも、母国語同士が多い場合には他言語を使う機会が減ってしまう。意識的かつ意図的に他言語を使おうとしても、それは難しいのが現状である。従って、語学力を高めたのであれば、各々が窮地に立たされ、他言語を話さなければ解決できないといった状

況に我が身を置くことが望ましいのである。従って、先述した外出、ショッピングなどは語学力向上には適した環境を与える事ができたと自負できる。



写真4 参加学生42名の授業風景(2006年度)  
(photo by Kitahama)



写真5 参加学生7名の授業風景(2016年度)  
(photo by Kitahama)

#### 〈4・2〉 ICT と SNS の活用

昨今の引率者の提言及び 2006 年度引率の経験を踏まえ、2016 年度は ICT と SNS を活用する事とした。具体的には、海外用 Wi-Fi をレンタルし、連絡手段(情報交換)として SNS<sup>\*9</sup> を、課題提出として E-mail を駆使する事とした。各学生が常日頃から使用しているスマートフォンを、そして慣れ親しんでいる SNS や E-mail を利用する事により、出発前の事前指導や学生間の情報交換なども容易かつ円滑になった。また、海外用 Wi-Fi を携帯する事で、Free Wi-Fi が設置されていない場所においても、学生・教員間の連絡を可能とさせた。

このように学生に Wi-Fi を携帯させ、SNS を利用した連絡方法を確立する事により、リスクマネジメントの一環としての効果をも見出すことができた。例えば、フィールドワーク、フリータイムやフリーデーでは以下の事を義務付け、各グループに Wi-Fi を持参させた、1) 目的地・移動方法を随時 SNS にアップ、2) 目的地を変更す

る事があれば SNS にアップ、3) 乗車バス時刻決定、或いは HTIC に到着したら SNS にアップ。これらを学生に徹底させる事により、学生が何処で何をしているのかを可視化できると共に、学生間での情報交換を可能とさせることができた。また、Wi-Fi を持参し、地図アプリケーションを起動する事によって、現在地・目的地の探索、或いは、市バスの時間や乗継を確認する際において非常に効果的であった。

#### 〈4・3〉 アメリカンフットボール観戦に関して

アメリカンフットボール観戦において、単なる観戦にならないよう前夜のスタディタイムに事前学習を行った。NCAA (National Collegiate Athletic Association) の仕組み、アメリカンフットボールのルール説明、Home & Away 方式による試合スケジュール、応援方法など、無知のままでの試合観戦とにならないように説明を行った。

アメリカにおける大学スポーツの位置付けは、単なる大学の試合開催だけでは終わらない。大学全体、そして町を挙げての一大イベントである。特に、University of Hawaii at Manoa (以後、UH) の場合には、州内に強豪大学やプロリーグなどが存在していない事もあり、マウイ島、ハワイ州全体での応援となる。また、その試合は、フットボールプレイヤーだけではなく、マーチングバンド、チアリーディング、各種スタッフ、そしてボランティアなど様々な人たちが携わり、試合が成立している事を伝えた。その上で、カレッジグッズ販売、駐車場、警備員、飲食物の販売等、大学スポーツそのものが1つのビジネスの場になっている事を告げ、いかに大学スポーツがハワイで、そしてアメリカで重要な位置づけであるかについて説いた(写真6参照)。

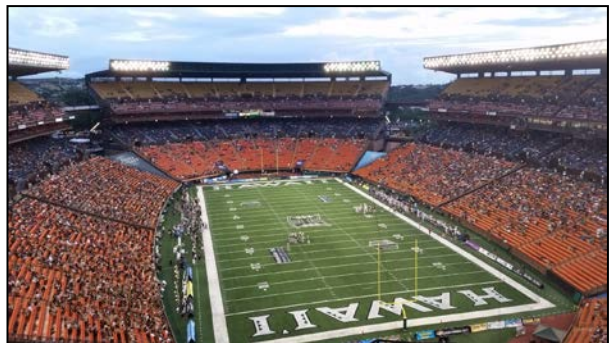


写真6 UH Football game@ Aloha stadium  
(photo by Kitahama)

学生達の驚きはスタジアムに入る前から始まった。アロハスタジアム周辺に立体駐車場は存在せず、遙かスタジアムの遠くまで駐車場は広がっている。スタジアム入口周辺の駐車場は、アメリカのサブカルチャーとも言えるテールゲート・パーティー<sup>\*10</sup>である。大多数の車がバックドアを開け、大音量で音楽を流し、老若男女がグリルで肉を焼きながら、談笑しており、その大半は UH のスクールカラーである緑と白の服で統一されている。初



めてテールゲート・パーティーを見た学生からは、「この人たちは何をしているのですか？」であった。

次の驚きは50,000人収容のスタジアムである。福岡最大の屋外スタジアム<sup>24)</sup>の最大収容人数は22,563人と半分以下である。アロハスタジアムの紹介は事前学習にて行っていたが、実際にスタジアムを目の当たりにすると、その大きさは格別であったようである。

今回観戦した試合は、UHのホームゲームと言う事もあり、UHのユニークな応援を見る事ができた。例えば、マーチングメンバーによるダンス、チア男子メンバーによる大学の巨大旗を靡かせながらのコート1周ランニング、UHが得点する毎に鳴らされる空砲、また、迷彩服を来た多数の学生がコートサイドの観客席からコートエンドにまで出ての腕立て伏せ、そして、相手大学の選手や応援団に対してスタジアム全体でのブーイングなど、日本とは異なった応援方法の数々を見る事ができた。

事前学習の効果もあり、女子学生6名は試合観戦前にお揃いのUH応援Tシャツを購入していた。また、当日はアロハスタジアム入口にてUH応援用に緑のヘアバンドが配布されており、それも着用して応援していた学生もいた(写真7参照)。



写真7 After the UH Football game (photo by Kitahama)

#### 〈4・4〉 観光研修に関して

観光研修当日は、HTICがあるカポレイからホノルルを通過し、観光地としても著名なダイヤモンドヘッドを最初の目的とした。その理由は、アメリカだけでなく世界中から観光客が訪れるホノルル市街を一望し、改めてホノルル(ワイキキ周辺)について視覚的に理解・納得させる為である。ダイヤモンドヘッド最寄りのバス停からは、徒歩40分程で展望台まで到着した。展望台からは、オーシャンブルーの大海原、無機質に立ち並んだ海沿いのビル群、山肌に建てられた住居群、そして、市街の奥には滞在していたカポレイ地区を見る事ができた。急な登山道や階段などはあるが、体力的にもそれほど辛い山登りではなく、最寄りのバス停から登山そして下山まで2時間程の行程であった。

ホテル視察は、Hilton Hawaiian Village(以後、HHV)にて実施した。HHVの松田氏よりレインボータワーのオーシャンフロントの部屋、そしてマウンテンビューの部屋、最後にアライタワーのスイートルームの計3部屋を視察しながら、説明を受けた。視察中には学生からの様々な質問、ワイキキのホテル事情、HHVのコンセプト、部屋の料金設定、国別訪問客の割合などホテルに関するトピックから、ハワイにおける日本人従業員の必要性、HHVの従業員の待遇、HHVのリクルート方法などに至るまで幅広く応えて頂いた(写真8参照)。



写真8 HHV toward to Diamond Head (photo by Kitahama)

HHV視察より同行して頂いたJTB Hawaii Travel, LLC(以後、JTB Hawaii)の清水氏の案内により、HHVから約10分ワイキキの市街地を徒歩にてJTB Hawaiiまで移動した。到着後、JTB Hawaiiの部署毎(企画、手配、オペショナル、クレームなど)に関する説明を受けながら社内視察をさせて頂いた(写真9参照)。その後、会議室にて清水氏による「ハワイ‘OLI‘OLIセミナー」1)ハワイのマーケット動向/旅行会社別シェア、2)ハワイの基本情報~ハワイの魅力~、3)2016年度ルックJTB‘OLI‘OLIサービスの紹介、を受講した後に、学生の質問に答えて頂いた。尚、JTB Hawaiiには、清水氏を含め東海大学の卒業生が2名、そして福岡短大の卒業生が1名勤めているとの紹介もあった。

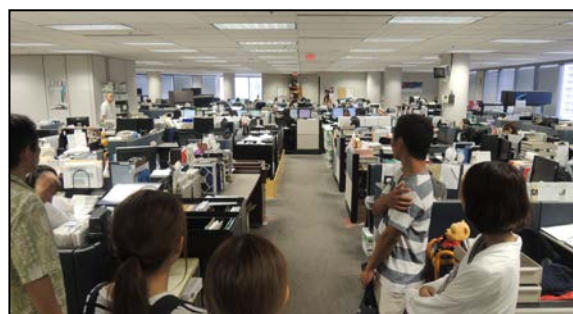


写真9 JTB Hawaii Travel, LLC (photo by Kitahama)

## 5. おわりに

17年継続して実施されていたハワイ留学のプログラムが終焉する事となった。過去のプログラムを振り返る事で、各年度のプログラムには時代背景、そして福岡短大の学生数など様々な因子があった事を改めて確認する事ができた。

2016年度のプログラムを構成する上で、英語力を高める事は勿論の事であるが、それ以上にハワイ・アメリカでしか得られない経験を与える事にプログラムの重点を置いた。自分の英語力で挑戦できる事柄を日常的なプログラムに含み、様々なフィールドワークでは新しい体験を基に視野を広げ、国際的な感覚を身に付けられるように試みた。

その結果、参加学生全員が日本語を使う事無く、最終日のプレゼンテーションを終える事ができた。1人3分程度のプレゼンテーションではあるが、台詞、掲示物、写真など、そして質疑応答に至るまで拙い英語を駆使しつつも、日本語を一切使用する事なく最後の課題を務め上げる事ができた。このような素晴らしい学生と共に2016年度ハワイ短期留学を実施できたことを誇りに思う(写真10参照)。



写真10 Closing ceremony with Mr. Timothy Martin  
(photo by HTIC staff)

## 6. 謝辞

2016年度ハワイ短期留学を実施する上で、全面的に協力して頂いたHTICのスタッフ、英語力に自信が無かった学生に自信を与え、そして英語好きにして頂いたMr. Timothy Martinに厚く御礼申し上げます。また、藤本幸男教授(東海大学福岡短期大学)には、観光研修の原案から実現に至るまで現地との調整及び事前指導など多大なる支援を頂いた。現地ホノルルでは、Hilton Hawaiiの松田光裕氏(Regional Director of Sales and Marketing-Asia)及びJTB Hawaii Travel, LLCの清水雅也氏(Senior Manager)にご協力頂いた事を記して謝意を表す。

## 引用文献

- 1) GATEWAT 2016-17 Hawaii Tokai International College 進学ガイドブック Hawaii Tokai International College
- 2) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 1995年度
- 3) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 1996年度
- 4) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 1997年度
- 5) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 1998年度
- 6) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 1999年度
- 7) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2000年度
- 8) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2001年度
- 9) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2002年度
- 10) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2003年度
- 11) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2007年度
- 12) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2004年度
- 13) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2005年度
- 14) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2006年度
- 15) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2008年度  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2008/ftokai\\_AnnualReportOnEducationsAndResearches\\_2008.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2008/ftokai_AnnualReportOnEducationsAndResearches_2008.pdf) (2016.9.24 閲覧確認)
- 16) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2009年度  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2009/ftokai\\_AnnualReportOnEducationsAndResearches\\_2009.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2009/ftokai_AnnualReportOnEducationsAndResearches_2009.pdf) (2016.9.24 閲覧確認)
- 17) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2010年度, VII. 社会的活動  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2010/2010-07.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2010/2010-07.pdf) (2016.9.24 閲覧確認)
- 18) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2011年度, VII. 社会的活動  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2011/2011-07.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2011/2011-07.pdf) (2016.9.24 閲覧確認)
- 19) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2012年度, VII. 社会的活動  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2012/2012-07.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2012/2012-07.pdf) (2016.9.24 閲覧確認)
- 20) 東海大学福岡短期大学教育研究年報編集委員会：東海大学福岡短期大学教育研究年報 2013年度, VII. 社会的活動  
[http://www.ftokai-u.ac.jp/public\\_information/pdf/2013/2013-07.pdf](http://www.ftokai-u.ac.jp/public_information/pdf/2013/2013-07.pdf) (2016.9.24 閲覧確認)
- 21) 2014年度東海大学福岡短期大学第3回教授会資料：2014年度「ハワイ短期留学」参加許可者名簿
- 22) 2015年度東海大学福岡短期大学第5回教授会資料：2015年度「ハワイ短期留学」参加決定者名簿
- 23) 2016年度東海大学福岡短期大学第4回教授会資料：2016年度「ハワイ短期留学」参加決定者名簿
- 24) レベルファイブスタジアム  
[http://www.avispa.co.jp/game\\_practice/stadium](http://www.avispa.co.jp/game_practice/stadium) (2016.9.24 閲覧確認)

## 注

\*1 これ以前より、海外研修航海などのプログラムが開催、参加しているようであるが、本稿では本学教員引率による留学に絞る事とする。

\*2 HOPES プログラム：Hawaii Outreach Program for English Studies (HOPES)

対象：東海大学・短大在学生、TOEFL®400点以上



## 「ハワイ短期留学」の報告

英語コミュニケーション能力の向上を目指し、英会話や英作文、スピーチに加え、アメリカ文化・ハワイ文化を学ぶ約4週間のプログラムです。TOEIC®テスト対策にも授業の中で取り組みます。  
<http://htic.pr.tokai.ac.jp/gakka/jido/> (2016.9.26 閲覧確認)

- \*3 2003年度の引率者によると、4月実施の諸問題により試験的に10月実施が採用された。
- \*4 科目事のガイダンスが終わった2週目、3週目に短期留学が実施される為、授業運用が難しい。短期留学に参加していない学生への対応等
- \*5 東海大学福岡短期大学国際文化学科スポーツマネジメントコース担当及び観光文化研究所所員
- \*6 Football Game : University of Hawaii at Manoa Rainbow Warriors VS University of Tennessee at Martin Skyhawks @Aloha Stadium Sep 10<sup>th</sup> 2016, 18:00~
- \*7 ホテル視察 : Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort  
2005 Kalia Rd, Honolulu, HI 96815 808-949-4321  
旅行会社訪問 : JTB Hawaii Travel LLC.  
2155, Kalakaua Ave. Bank of Hawaii 9<sup>th</sup> Fl
- \*8 隣接している University of Hawaii-West Oahu のカフェテリアの共同利用
- \*9 コミュニケーションアプリ LINE (ライン) : ハワイ短期留学参加学生及び教員でグループトークを作成する事で、無料メール、無料ビデオ通話、無料音声通話、また画像、動画の共有等が可能となる。
- \*10 テールゲート・パーティー : スポーツ試合会場の駐車場にて、テールゲート (Tailgate) と呼ばれるトラックやバンの荷台を使用して、パーベキューをしながらアルコール飲料を飲むと言った観戦前に駐車場等で行われるパーティーの事。テールゲートを禁止している駐車場やテールゲート専用の駐車場など対応は会場によって様々である。